

令和2年度石巻市復興公営住宅入居者等健康調査概要

担当 健康部健康推進課

1 調査内容**(1) 災害公営住宅入居者健康調査（入居1年以上経過した世帯：県と市共同）**

① 目的

入居者の健康状態を把握することにより、要支援者を専門機関等の適切な支援に結びつけるとともに、今後の支援のための基礎資料とする。

② 対象者 令和2年10月までの復興公営住宅入居者

③ 調査時期 令和2年11月から令和3年2月まで

④ 健康調査状況（表1のとおり）

対象世帯数；3,932世帯 調査世帯数；2,692世帯（回収率68.5%） 調査人数；4,295人

⑤ 調査方法 郵送による配布・回収によるもの

（石巻市社会福祉協議会地域生活支援員による声かけあり）

(2) 防災集団移転団地入居者健康調査（自立再建世帯：県と市共同）

① 目的

入居者の健康状態を把握することにより、要支援者を専門機関等の適切な支援に結びつけるとともに、今後の支援のための基礎資料とする。

② 対象者 令和2年8月末までの入居者〔渡波・荻浜・河北・雄勝・北上・牡鹿地区〕

③ 調査時期 令和2年11月から令和3年2月まで

④ 健康調査状況（表2のとおり）

対象世帯数；484世帯 調査世帯数；330世帯（回収率68.2%） 調査人数；916人

⑤ 調査方法 郵送による配布・回収によるもの

（石巻市社会福祉協議会地域生活支援員による声かけあり）

2 健康調査結果から見たもの

(1) 全体の健康調査結果をとおして

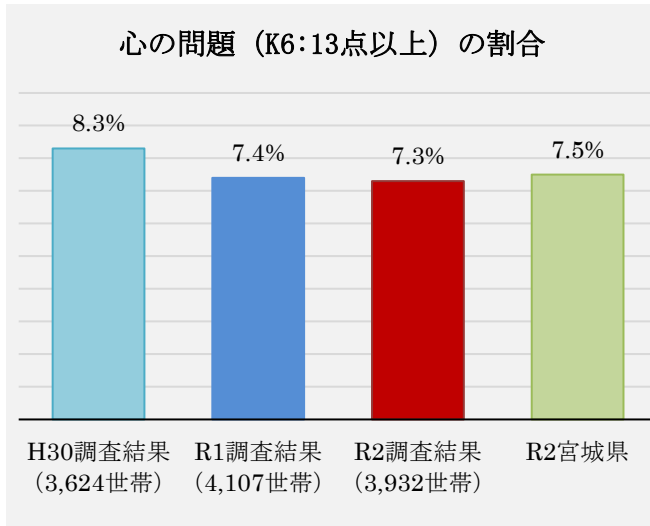
① 災害公営住宅入居者健康調査結果から (表1) ※ () 内は前年度の数値

○ 独居、2人暮らし世帯と65歳以上の高齢化率が高い傾向にある

・復興公営住宅入居者の独居世帯の割合は49.90%、2人暮らし世帯の割合が31.83% (表3-1) で合わせて約8割となっている。また、高齢化率が45.62% (表3-1) と本市33.60% (表3-2) と比較して高い。健康調査回答者の世帯状況は、独居世帯の割合が53.1%、65歳以上の割合は56.2%と高い傾向である。

○ 心の問題は改善傾向にあるが高い割合である

・「心の問題(K6:13点以上)」の割合は7.3% (7.4%) と前年度と比較してほぼ横ばいであり、依然として高い傾向にある。



※K6 (ケーシックス) とは・・・

米国で考案された調査手法でうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標。「神経過敏に感じる」「絶望的と感じる」「そわそわ、落ち着かなく感じる」「気分が沈みこんで何が起ころうとも気が晴れなく感じる」「何をしても骨折りに感じる」「自分は価値のない人間だと感じる」の6つの質問について5段階で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられる。

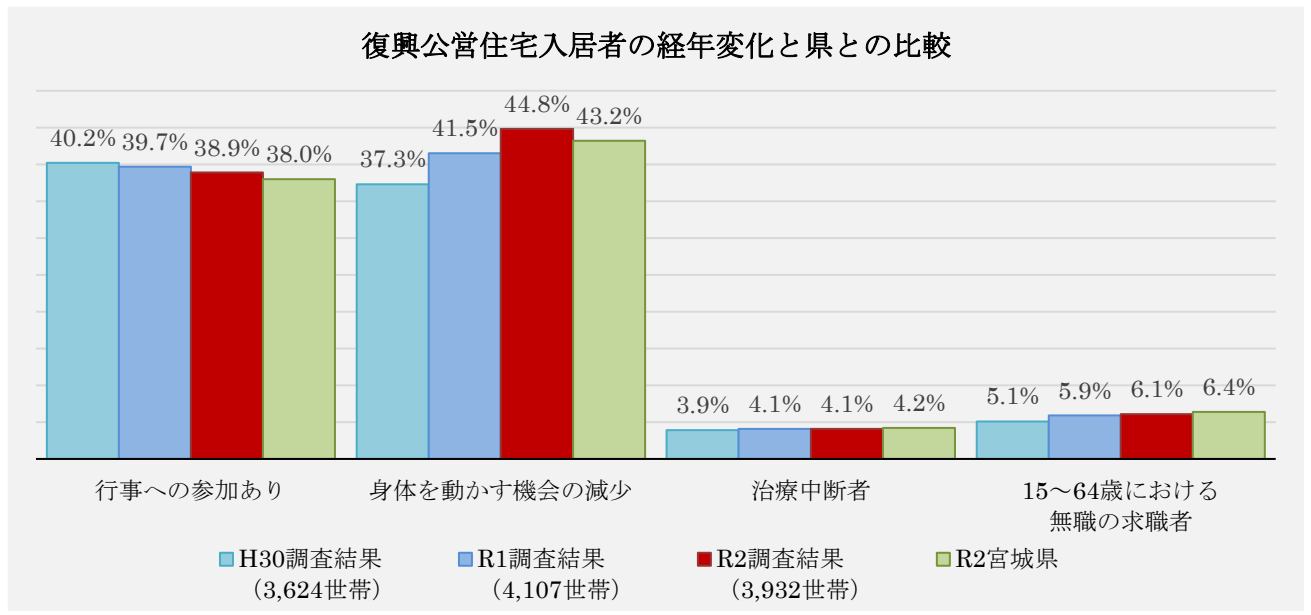
令和元年に厚生労働省が実施した国民生活基礎調査では13点以上が4.3%であった。(20歳以上。「不詳」を除いて集計。)

○ 行事への参加や身体を動かす機会は減少傾向である

・「行事への参加あり」の割合は38.9% (39.7%)、「身体を動かす機会の減少」は「とても少なくなった」「少なくなった」人の割合が44.8% (41.5%) で前年度と比較して活動量が減少傾向にある。

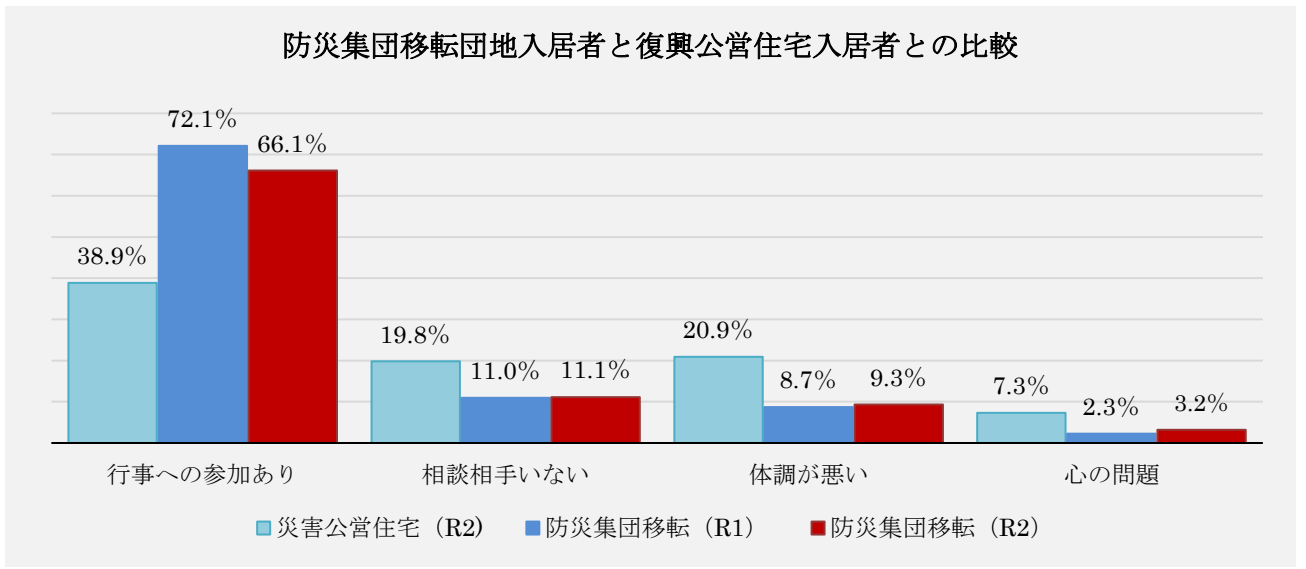
○ 病気がある人、治療中断者は横ばい傾向である

・「病気がある人」の割合は64.1% (64.9%) で、特に高血圧症や糖尿病などの生活習慣病が上位を占める。有病者のうち、「治療中断者」の割合は4.1% (4.1%) で横ばいである。



② 防災集団移転団地入居者健康調査結果から (表2)

- 防災集団移転団地入居者と復興公営住宅入居者を比較すると、独居世帯や無職者の割合が低い。
- 体調や心の状態は復興公営住宅入居者よりも健康状態はよい傾向であり、「行事への参加あり」の割合も高く、地域での交流や人のつながりがあると予測される。



(2) 要支援者の概要

○ 災害公営住宅入居者健康調査 (入居1年以上経過した世帯：県と市共同)

調査人数	要支援者数 (率)・内訳
4,295 人	312 人 (7.3%) 心の問題、相談相手がない男性、体調不良等

○ 防災集団移転団地入居者健康調査 (自立再建世帯：県と市共同)

調査人数	要支援者数 (率)・内訳
916 人	43 人 (4.7%) 心の問題、相談相手がない男性、体調不良等

3 全体の考察

*復興公営住宅入居者について

- 「心の問題」を抱える人の割合は前年度とほぼ同率である。新型コロナウイルス感染症のまん延により、感染症への不安や生活スタイルの変化に伴うストレスが重なり、今後も心のケアが必要である。
- 入居者の高齢化が進む中で病気のある人が約6割を超え、高血圧や糖尿病などの生活習慣病が増加し、さらに治療中断による疾病の重症化が懸念される。
- 独居世帯の割合が高くなる一方で、対人交流の減少や身体活動量の低下により、社会的孤立やフレイルなどが懸念されることから、コロナ禍においても人とつながりをもつ地域コミュニティサポート体制が必要である。
- 生産年齢人口における無職者の求職が微増している。新型コロナウイルス感染症は社会・経済状況に影響するため、引き続き関係機関と連携した相談支援が必要ある。

*防災集団移転団地入居者〔渡波・荻浜・河北・雄勝・北上・牡鹿地区〕について

- 前年度同様、地域とのつながりや何らかの仕事や役割を持ち、心身の健康状態もよい状態が維持できていると考えられる。

4 今後の取組等について（新型コロナウイルス感染状況に注視し、予防対策を講じながらの各事業の実施）

○ 自死予防及び孤立予防対策のための包括的支援の継続

- ・ 自死対策推進計画の推進や関係機関及び庁内の関係課と横断的に連携した支援の実施
- ・ 民生委員、各関係団体等の連携による見守り、支え合い体制の継続
- ・ 相談窓口の周知の強化（SOSの出し方強化事業）

○ 心身ともに健康に暮らせるための体制継続と健康づくりの推進

- ・ 専門職による心のケアのための相談、訪問等の継続（心のサポート拠点事業）
- ・ 身近な相談機会となる「まちの保健室」の実施
- ・ 健診を通じた健康づくりの推進、健診未検者及び要精検者への勧奨

○ 関係課及び多職種連携による包括的かつ継続的な相談支援の充実

- ・ 健康や無職者、生活困窮等の巡回相談「せいかつ・けんこう・しごと・こまりごと相談会」の実施
- ・ 複合的・複雑化した課題の解決に向けて「福祉まるごと相談」の実施